

# 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

<b>団体名</b>	おたるエデュケーション			
<b>事業名</b>	小樽のまちに学びの場と機会を作ろう 2020			
<b>実施期間</b>	令和2年6月～令和3年3月			
<b>事業の目的及び期待する効果</b>	<p>小樽市内の不登校児童生徒数は、年々微増しており、平成30年度で小学生39名・中学生100名と合計で139名になり、形式卒業し、高校進学をしても再び不登校になるケースも多い。</p> <p>全国各地の「登校支援室」では、定期的に通級している児童生徒は全国平均で12%と言われ、小樽市も同じような状況にあると思う。</p> <p>学びの多様化(オンラインでの学びの普及など)により、全ての不登校児童生徒、形式卒業したみなさんの全てが学びの機会を逸しているわけではないが、学校に行けないということで自己肯定感は必ずしも高くはない。不登校児童生徒の多くは学校に行けないことで自己肯定感が低くなっており、家庭及び家庭以外に居場所がないケースが多い。</p> <p>そのため、家庭以外で安心できる居場所を用意し、自ら学び、自立していくためのサポートを目的とする。その結果、家庭・学校以外の第3の居場所で自分らしさを見つけることで、自己肯定感が徐々に上がり、自ら学び、自立していくことにつながっていくと期待する。</p>			
<b>実施額</b>	事業費	350,000 円(申請時)	助成額	300,000 円(申請時)
<b>事業内容</b>	別紙のとおり～「活動記録 2020」を参照			

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

## ○事業の日程について

実施時期	実施内容	想定している事業 (参加者数等)	事業効果 (実績)
6月～3月	居場所づくり	10名×30回	6回32名 (12月末時点)
6月～3月	課外活動	10名×8回	11回73名 (12月末時点)
7月、1月	ボランティア向け研修会	20名×2回	中止
8月、2月	子どもの学び体験	20名×2回	中止

### 1. 事業の目的の達成度

不登校の子どもや保護者の新たな参加や問い合わせは増えたが市民参加はコロナの影響により激減した。不要不急の外出を控えるように言われている中、積極的な市民参加は促せなかった。また、休校措置などにより教育現場や講師として呼びたい方々も皆、様々な対応に追われている状況から事業予定としていたボランティア研修会や子どもの学び体験は中止とした。居場所の場を増やしていく点は保護者1名と市民1名で地域の真栄会館を毎月第3木曜日に固定開催とし、少しずつ利用が増えてきている。

### 2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

- ・こういった場の提供が有難いとの声が多く、参加者の満足度の高さが伺えた。
- ・子どもにとっては家にいる時間が多く、他者との交流の機会であったり、体を動かす機会などにより、イキイキしていた。
- ・保護者にとっては不登校の理解が得られたり、子どもの楽しむ姿が見られて嬉しいなどの声が聞かれた。
- ・周辺からはこういった場は必要だと肯定的な声も聞かれた。

### 3. 今後の事業について

コロナの影響により子ども達の不安やストレス等はいろんな形であったと思われる。進路なども変更しなくてはならなかった学生もいると思われる。子ども達のSOSは時間が経過してから出てくることもあるので事業は継続していきたい。また、昨年度までたるエデュを利用していたがコロナの影響で学校も休んだまま他者との交流が不安でできない家庭やメールや手紙のみのやり取りの家庭も数件ある。今年度はフリースクールを市内でさがして連絡があったり、札幌の居場所に行き、たるエデュを紹介され、利用してくれたケースなどもあった。逆に札幌からたるエデュに参加したいとの問い合わせも数件あったことから小樽にこういった場があることが大切であると再確認した年となった。コロナの影響で活動の場が思うように広がらなかった。また、コロナが収束しなければ当初計画していた多世代交流も難しいと思われるが収束した時には多世代交流ができ、そのような場を増やしていけるよう事業を継続していきたい。

### 4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関する要望事項等

コロナ禍で事業の継続に不安もあったが採択して下さり、とても感謝しています。事業内容の変更等にも適応か調べてくださったりとお忙しい中ありがとうございました。今後は役所内、他部署との連携も出来ていくと大変心強いです。これからもご指導・ご鞭撻の程よろしく願い申し上げます。